

# 中東遠医療圏域における 地域医療連携

掛川市立総合病院  
地域連携室  
神谷保廣

第2回地域連携フォーラム 2010.4.14

# 掛川市立総合病院地域連携室

総員13名

室長 医師 1名

係長 事務 1名

退院支援・訪問看護

看護師 3名

事務 1名

医療相談員

M S W 2名

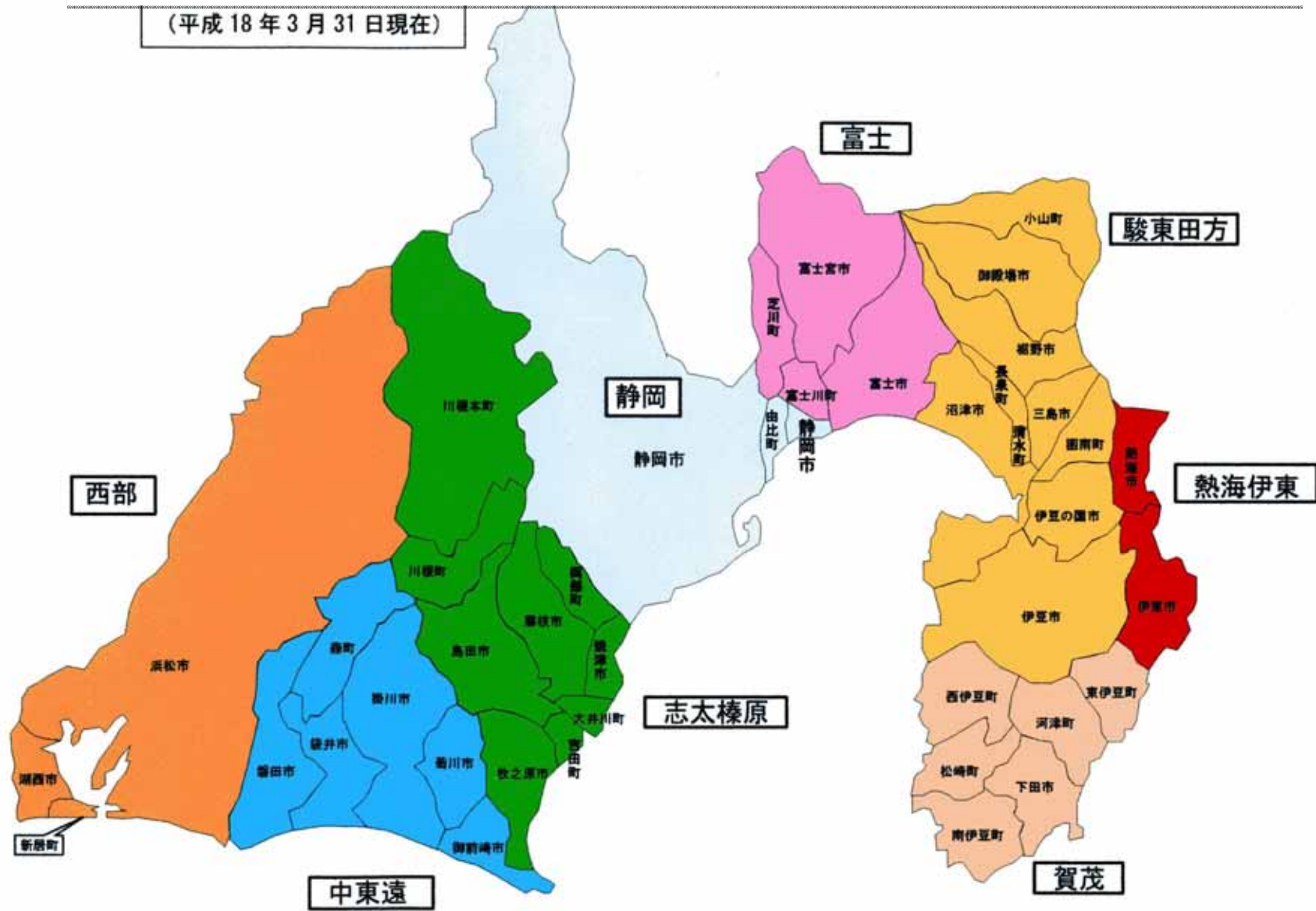
委託職員 5名



Est. 2003.4

# 静岡県2次保健医療圏域 8医療圏域

(平成18年3月31日現在)



# 中東遠医療圏域に6自治体病院



## 病床数と利用率

磐田市立総合病院	500床	83.6%
掛川市立総合病院	410床	85.6%
市立袋井市民病院	302床	47.7%
菊川市立総合病院	210床	82.9%
市立御前崎総合病院	248床	35.1%
公立森町病院	140床	61.4%

# 医療連携体制を構築

医療法第30条の4第2項第2号

厚生労働省は平成19年7月20日付け

## 「4疾病5事業」

4疾病 : がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病

5事業 : 救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療(小児救急医療を含む)

平成20年4月を目途に新しい医療計画の作成

- (1) 必要となる医療機能の明確化
- (2) 地域の医療機関の役割
- (3) 医療連携体制の推進



# 静岡県保健医療計画

平成17年 - 21年 (5カ年)

7疾病…がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、喘息、肝炎、精神疾患  
5事業…救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、  
小児医療(小児救急医療を含む)

医療連携体制の構築

専門化、拠点化



**中東遠医療圏域内の連携：**

**医療内容の住み分けを行い連携**

**医療圏域を超えた連携：**

**高次医療の連携を行い、  
医療水準の維持**



# 掛川市・袋井市が新病院を建設する

急性期医療に特化した病院



- 平成25年春開院予定、場所は掛川市下俣・長谷地内
- 総病床数 500床、外来患者数 1200人、
- 標榜診療科 32科、健診センター
- 平均在院日数 12日、病床利用率 95%



# 地域医療再生計画

総額3100億円の国の事業でそのうち25億円が交付される

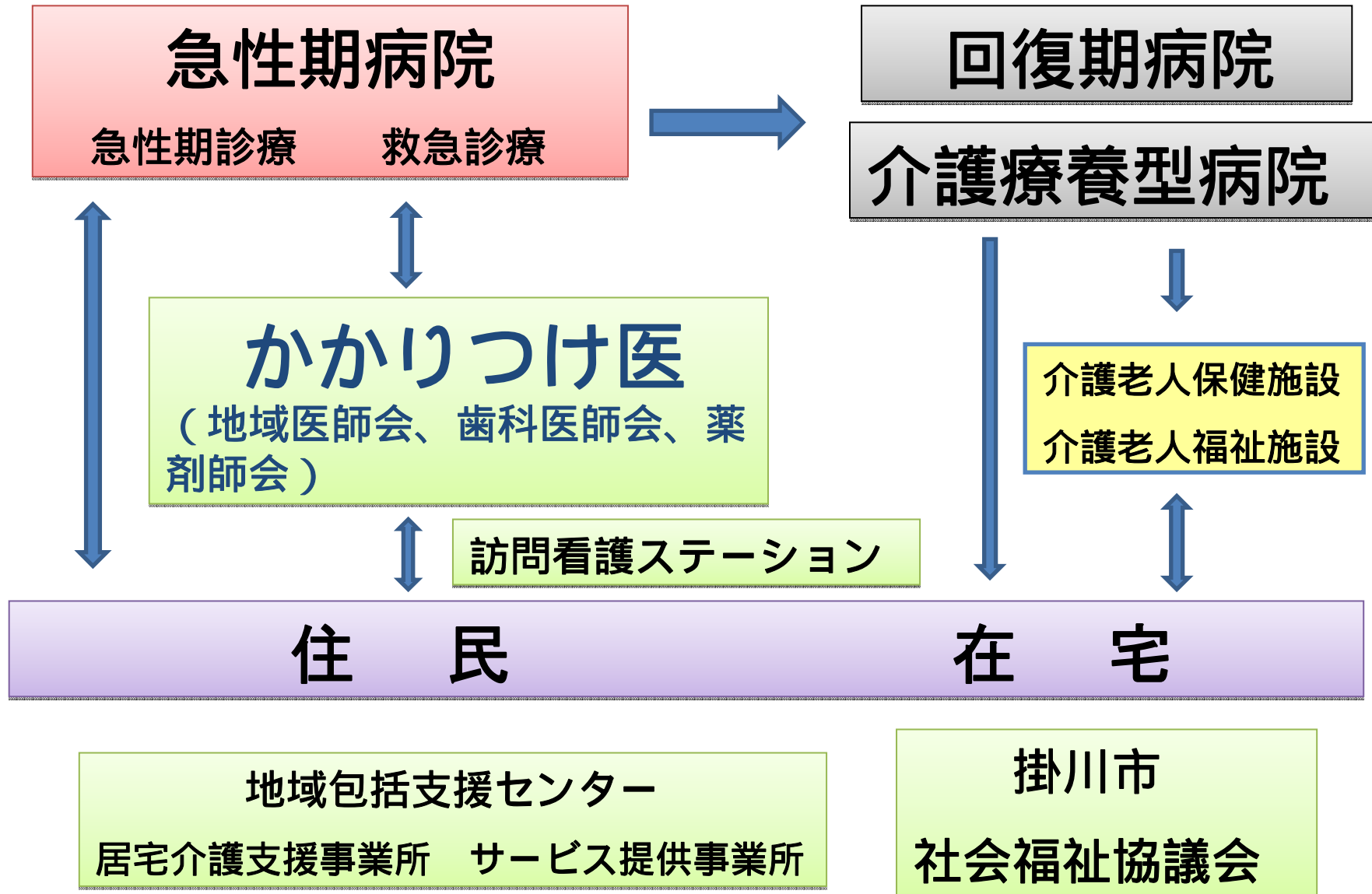
- ✓ 機能分担、医療機器等の整備 11.5億円
  - 統合新病院：循環器・脳卒中・糖尿病拠点 9.3億円
  - 磐田：腫瘍センター 2.2億円
- ✓ 圏域内の医療機関等の連携促進 2.8億円
  - 地域医療再生支援センター 1.2億円
  - 地域健康支援センター（掛川市） 0.8億円
  - 現袋井市民病院に療養病床、急患センター 0.8億円
- ✓ 連携を電子化しネットワーク化する 2.3億円（御前崎）
- ✓ 医師確保対策 8.4億円（磐田、菊川、森町）

# 掛川市地域健康医療支援センター

地域医療再生計画の一環（新病院を念頭に）

- 掛川市の目指す「健康医療日本一のまちづくり」の達成のための独自のサービス
- 多職種によるワンストップ総合支援拠点
- 医療、保健、福祉、介護が一体となったサービス提供体制の整備
- 平成22年9月、東部にまず1センターを開設
- 平成24年度までに市内5か所を整備する

# 地域からみた医療連携



# 地域連携パスの運用と拡大

地域連携パス：連携のためのパスポート

対象疾患：脳卒中、大腿骨頸部骨折  
(癌、糖尿病、慢性呼吸器疾患、心筋梗塞、白内障などへ拡大)

急性期 (病院)

回復期 (リハ病院、施設)

維持期 (在宅、施設)



# 地域医療支援病院をモデルに

静岡県内には

聖隷三方が原病院、聖隷浜松病院  
県西部医療センターなど8か所指定

紹介あるいは救急の急性期疾患を主体として、軽快後は地域の医療機関へ

開放病床による切れ目のない診療  
在宅医療の推進、市民参加の医療  
後方支援施設の整備連携



# 第12回 日本医療マネジメント学会総会

開催日 平成22年6月11日—12日、札幌  
地域連携室から2演題が採用されました。

- 萩田係長  
「亜急性病床の効果的運用」
- 石山看護副師長  
「急性期病院における退院支援について」

全国学会でこれまでの成果を報告してきます。